

シイタケやシメジは、傘の裏側に多数の「ひだ」があります。その表面に「担子器（たんしき）」という器官が多数あって、そこに胞子をつくって拡散します。つまり、キノコ（子実体）は、胞子の拡散のための道具であって、顕花植物（種子植物）でいえば花か果実の役割をしています。

傘の裏側に「ひだ」ではなく、多数の管孔（くだあな）をつけるキノコもあります。サルノコシカケ科やイグチ科のキノコです。これらの菌類は、その管孔の内側に担子器をつくり、そこから胞子を拡散します。そのイグチの仲間のキノコには面白い性質があります。傷つけると、ただちに变色する種類があるのです。

一番顕著に変色が見られるのは、その名も「イロガワリ」というキノコですが、やや珍しい種類なので、時々見かける程度です。もう一つは「コウジタケ」というキノコで、こちらはカラマツ林にごく普通に見られます。「麴」の匂いがするのでこの名があります。傘の裏側や肉は黄色いのですが、傷つけて空気に触れると、ただちに青く変色します。今回の動画はその実験の様子ですが、ややピンボケです。見つけたら是非試してみてください。

(2023年8月下旬／北軽井沢)

